

世界かんがい施設遺産

うさのかんがいようすいぐん

宇佐の かんがい用水群

[大分県・宇佐市]



～宇佐宮の水田開発に表れた
先駆的で多彩な農業土木技術の集合と結合～

■ 駅館川を用水源とする平田井路と広瀬井路は、西側平野部と東側台地部にかんがい用水を供給。平田井路は、1156年に開削され、平野部を約12km貫流。広瀬井路は宇佐神宮の財政支援を受けて1751年に築造が始まったが、地盤崩落により工事が進まず、120年の歳月と5度の挑戦を経て、1870年、庄屋の南一郎平らの尽力により完成。平田井路・広瀬井路併せて約240haの水田開発により、地域農業の発展及び食料増産に貢献。

■ 平田井路の取水施設である平田頭首工は現在も築造当時の形状を残す。円筒分水をはじめとする多数の分水施設には、「時水」と呼ばれる細かな取水規制の取り決めが現代に引き継がれている。

■ 広瀬井路は、全長約17kmを1/1000の精密な勾配で敷設された他、約900mにわたる隧道掘削では、硬い岩盤を掘削するため、坑内に薪をならべて加熱し掘り割って進める工法が採用。旧水路ではノミの痕跡を確認することができる。

■ 広瀬井路の石工集団は、用水を川や谷を渡すために築造した石橋や逆サイフォン水路の高い技術が評価され、その後、高度な石工技術の全国普及に貢献。

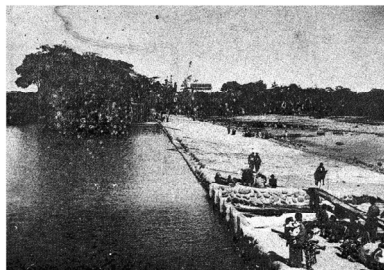
■ こうした農業水利の歴史や独特な農耕文化、持続的な農業が世界的にも評価され、2013年、宇佐は国東半島とともに世界農業遺産に選ばれている。



現在の平田頭首工（全景）と平田井路の古地図



現在の広瀬頭首工（全景）と広瀬井路の古地図



1929年以前の様子



井堰や沈み橋など、昔の形状を残す平田頭首工



建設当時の石橋が現在も使われている
藤ヶ谷水路橋（広瀬井路）



ノミの跡が残る藤ヶ谷水路
トンネル内部（広瀬井路）